

第4章 未来への対策と取組

- 1 対策の7つの柱
- 2 対策から取組へ
- 3 取組事業
- 4 重点施策



いすみ市に飛来したコウノトリ

1 対策の7つの柱

第2章では、生物多様性にかかわる自然や生態系の「地域環境」及び人々の生活・生業・文化など「人間社会」についてのさまざまな課題を整理し、それに続いて第3章では、課題の解決に向け、そして、生物多様性を守り子どもたちの未来へ持続可能な社会を築いていくため、いすみ生物多様性戦略の「基本理念」と「目標」を掲げました。この第4章では、「目標」の達成へ向け、地域の「環境改善」と生物多様性の「普及利用」、戦略推進の「基盤整備」の視点から以下のような7つの対策の柱を立て、具体的な取り組みを設定しました。

課題 (第2章)

地域環境

- ① 自然環境の後退と伝統文化の衰退
- ② ゴミ増加と水・大気・土壌の汚染
- ③ 外来生物・野生鳥獣害の増加・拡大

人間社会

- ① 地域への関心・誇りや絆の低下
- ② 子どもの体験や生きる力・夢の減少
- ③ 過疎高齢化と地域経済の縮小

基本理念 (第3章)

生物多様性豊かな地域づくり
里山里海を守り伝える人づくり

目標 (第3章)

豊かな生物多様性を保全・回復させ、
環境と経済をつなぐ里山里海再生により、
みんな元気に幸せに、
いすみの自然と文化を誇りとしてくらす
持続可能な社会を目指します。

対策の7つの柱 (第4章)

環境改善

- 1) 里山里海の自然・文化の保護・保全
- 2) 里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理
- 3) 外来生物・野生鳥獣害の防除・管理

普及利用

- 4) 地域環境や先人の知恵の学び・継承
- 5) 生命感じる自立・循環のライフスタイル
- 6) 生物多様性を活かした産業創造

基盤整備

- 7) 生物多様性を担う組織・拠点の設置

2 対策から取組へ

課題解決といすみ市の将来に向けた地域の「環境改善」と生物多様性の「普及利用」、戦略推進のための「基盤整備」の視点から、対策の7つの柱にそって行動すべき取組を以下のように示します。

1) 里山里海の自然・文化の保護・保全〔環境改善1〕

① いすみ市域の生物多様性調査

いすみ市の里山里海の生物多様性の現状と変化を把握するため、市全域の自然・文化について調査します。その際、特に生物多様性豊かな区域である「沿岸器械根域」、「海岸及び河口域」、「谷津及び周辺林域」、「夷隅川及び水源域」等については調査の重点地区とします。

② いすみ市の貴重動植物の保全・再生とモニタリング

いすみ市に生息・生育する、または、かつて生息・生育していた生物で、国レベル・県レベルでも貴重かつ絶滅が危惧される種（コウノトリ、アカウミガメ、イスミスズカケ、ミヤコタナゴ、コアジサシ、ゲンジボタル、イスマナガゴミムシ、ハマガニ等）や群集・群落（夷隅川河口干潟生物群集、海岸植物群落等）について保護・保全を推進します。

③ 郷土の貴重な生物多様性のリスト化

いすみ市に生息・生育する、または、かつて生息・生育していた野生動植物や地域で育まれた栽培品種、さらに生物多様性関連の文化資産等についてのリスト化を進めます。特に貴重であり緊急対策の必要な種を「郷土生物多様性貴重種（仮称）」として選定し、至急の保護・増殖とモニタリングを推進します。

④ 生物多様性保護地域・保全地域の設置

生物多様性豊かな区域については、その豊かさを後世に伝えるため、「生物多様性保護地域・保全地域（仮称）」として設定し、その保護・管理と適切な利用を進めます。特に重要

な生物の生息・生育環境については「生物多様性トラスト」等により土地の確保を目指します。

⑤ 生物多様性ガイドブック等による情報発信

いすみ市の里山里海と生物多様性の現状について市民及び関係者にわかりやすく伝えるため、調査・モニタリング結果を適切に管理し、情報公開するとともに「いすみ生物多様性ガイドブック（仮称）」やガイドマップ、紹介映像等を作成し、その重要性についての理解を深めます。

⑥ 現場を担う人づくり生物多様性マイスター制度

いすみ市の自然・文化の調査・モニタリングや豊かな里山里海の保護・保全等の一翼を担う住民や団体を支援します。また、その活動に大きく貢献する個人・団体等については「いすみ生物多様性マイスター（仮称）」として位置づけ、活躍著しい個人・団体を表彰します。



ハマカキラン 絶滅危惧Ⅱ類

2) 里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理 [環境改善 2]

① 放棄・荒廃地の情報集約

いすみ市の里山里海の放棄・荒廃した場所や実態について「放棄・荒廃地実態調査(仮称)」を行い、その現状を把握します。マップ上に場所と放棄・荒廃の現状(かつての土地利用形態、放棄・荒廃の面積、地権者、管理の現状、放棄からの年数、現在の植生、ゴミや廃棄物の量等)についての情報を集約します。

② 里山里海の恵み(生態系サービス)の認識

里山里海の生物多様性の豊かさと地域の人々にもたらす価値「生態系サービス」、また、その再生・管理の必要性についての普及啓発を進めます。そのため、学校での体験型の「生物多様性教育」や住民・来訪者を対象にした「里山里海体験ツアー(仮称)」等を企画・実施しその重要性についての理解を進めます。

③ 里海の海洋資源の利用・管理システムの整備

海岸海域の生物多様性と漁業資源の確保のため、乱獲や海洋投棄を禁止し、海洋資源の持続的利用を基本とする将来計画や利用基準を策定して沿岸域生態系の再生・管理と監視の体制を整備します。その際、かつての里海の利用・管理の知識を取り入れます。

④ 里山の生物多様性農業の展開

生態系を劣化させ人体にも影響を及ぼす農薬や化学肥料の利用を減らし、農薬の空中散布やネオニコチノイド系農薬使用の自粛を進め、生物多様性の向上とその持続的利用に基づく「有機農業」や「冬期湛水」などの取り組みを支援・拡大させます。

⑤ 里山林の再生管理と利活用

現在、里山林の多くが放置され、しばしば人に被害を及ぼす野生鳥獣の生息地となっていますが、かつては燃料や肥料、建材などに利活用されるとともに生物多様性の重要拠点でした。多くの人々の支援と協働によって再生・管理し、広範な利活用を図ります。

⑥ 山・川・海への連続性と水辺再生

山から海への生物的連続性の回復のため、潮止め堰の撤去または魚道づくり等をおこないます。また、海岸や河川護岸のコンクリート構造物については素材を木材や石材に変更し、さらに岸辺を土や砂、基盤層に戻し水辺を自然の状態に近づける対策をおこないます。

⑦ 監視体制と里山里海の担い手育成

放棄された田畑・山林や海洋に、ゴミや廃棄物の不法投棄が生じないための監視体制を強化するとともに、地権者への助言・支援の体制を整備します。谷津田や山林の再生のための「援農」や「市民農園」を推進し、さらに「生物多様性トラスト」や農林業への従事を希望する個人及び団体への土地の斡旋・仲介体制等を推進します。また、里山里海の生物多様性に基づく農林漁業体験の機会を設け、新たな人材を育成します。



国吉の潮止堰 山と海のつながりを確保するために魚道が設置されている。

3) 外来生物・野生鳥獣害の防除・管理 [環境改善 3]

① 外来生物・野生鳥獣の生態と被害の現状把握の連携・協力

いすみ市の外来生物及び野生鳥獣の分布・生態と被害の状況について把握するための調査・モニタリングをおこない、その情報共有と課題の深刻さについての普及啓発をおこないます。そのため、市民や農林水産業従事者、生物・生態系の専門家、周辺自治体や県の農林水産や環境関係の行政、また千葉県生物多様性センター等との連携・協力を推進します。

② 被害の対策協議会と防除・管理の計画と実施

外来生物・野生鳥獣害にかかわる関係者や専門家等による「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置し、その実態把握及び情報共有の基に、被害分析や対策の研究を進めるとともに外来生物及び野生鳥獣の被害の防除・管理計画を策定し、具体的管理活動を推進・支援します。



キョン（特定外来生物） 近年急激に数を増やしている。

③ 「外来生物・野生鳥獣対策レンジャー（仮称）」制度

被害対策の現場で、その実施の指導者を養成します。地元の猟友会や外来生物及び野生鳥獣専門家等による被害対策講座や外来生物や野生鳥獣害についてのシンポジウムを企画し、地域の実情に合った防除・管理の具体的な対策を検討し実行する「外来生物・野生鳥獣対策レンジャー（仮称）」を設置します。

④ 里山里海再興の人づくり

外来生物・野生鳥獣害の防除・管理の前提となる里山里海の再興の人づくりを進めます。被害の温床となっている耕作放棄地や放棄森林等を再生して、外来種生物や有害野生鳥獣が生息・生育しにくい環境づくりをおこない、その状態を維持管理する人材を確保・増加させます。



アライグマ（特定外来生物） 千葉県には、1990年代後半に侵入し定着した。

4) 地域環境や先人の知恵の学び・継承 [普及利用 1]

① 地域環境の資料・情報と先人の知恵調査

いすみ市の人々が自然と調和・共存し持続可能な生活を営んでいた里山里海の自然・文化についての記録資料や生活用具や防災器具等のモノ資料を収集・保管するとともに、土地の古老への「聞き書き」等による調査を実施し先人の知恵を集約します。地域環境や先人の知恵と重要性について、子どもから大人までの幅広い世代にわかりやすく紹介するガイドブック「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」やマップ、映像等を作成します。

② 小・中学校の生物多様性教育

小・中学校の授業の一環として、生物多様性教育を推進します。食育をはじめ地域の自然・文化の素晴らしさや先人の知恵についての授業、体験・体感を通じて地域の自然・文化と生物多様性と人々のかかわりについての学習を進め、地域に対する誇りを育みます。

③ 持続可能な里山里海の暮らしを学び継承する「フィールドミュージアム」

生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座・観察会や探訪会、シンポジウム等を企画するとともに現地の自然・文化そのものを体験し、学び、守り伝える「フィールドミュージアム」等において、その先人の知恵を発掘し継承していきます。

④ いすみ市の環境や先人の知恵を伝える人づくり

子どもたちや来訪者に、いすみ市の環境や先人の知恵をわかりやすく伝える人材「いすみ自然・文化ミショナリー（仮称）」の育成を進めます。特におばあちゃん、おじいちゃんが孫の世代に対し、昔の生活体験の語りを通じて自然と調和する人の生活文化や生物多様性を持続的に利活用する知恵や技術を伝承するプログラムを推進します。



山田かかし祭り 地域のイベントとして、昔ながらのかかしをつくって展示



5) 生命感じる自立・循環のライフスタイル [普及利用 2]

① 人々のライフスタイル調査

生命感じる自立・循環のライフスタイルの前提として、子どもの遊びの実態や生活とのかかわり、大人の日々の暮らしと生物多様性の関係について「人々の暮らしと生物多様性調査（仮称）」を実施し、その日々の生活と生物多様性とのかかわりについての理解と情報共有を目指します。

② 子どもたちの自らの遊びや体験のなかでの生命の学びの促進

子どもたちが自らの遊びや体験のなかで、生命を学び生きる力を育む体感・体験の「場・時間・仲間」を持てる社会環境を再生させます。身近な「学校ビオトープ」や学校区の「水田ビオトープ」、「子どもの自然体験フィールド」などの確保、さらに「里山体験学校」「里海体験学校」「フィールドミュージアム」等での自然・文化を五感体験できる教育活動を推進します。

③ 自立・循環のライフスタイルと社会インフラ整備

資源・エネルギーを外部依存するライフスタイルから、身近な里山里海の自然の恵み（生態系サービス）を基本とする自立・循環のライフスタイルを提唱します。その重要性を普及啓発しつつ日々の暮らしの安心安全と自給自足を支える社会インフラについて検討し、学校給食や市の施設の食堂等での地産地消を推進し、市民自らが地域の将来を担う体制を整備します。

④ 地縁の復活といすみ市への移住の促進

人々の助け合いと分かち合いの地縁を再興させ、地域の豊かな生物多様性に基づく持続可能な農林漁業に加え、人それぞれの技術や経験を生かした固有の力を携えた「二刀流の暮らし」を奨励し、豊かな自然・文化の里山里海での暮らしを希望する人々のいすみ市への来訪や移住を促します。また、災害に見舞われた場合に他地域と助け合う「災害協定」を結びます。



古沢小学校生きもの観察会 子どもたちは遊びの中から多くを学ぶ

6) 生物多様性を活かした産業創造 [普及利用 3]

① 生物多様性産業の可能性を探る

いすみ市の印象や魅力等について外部の人を中心とした調査を実施するとともに、いすみの自然や文化、生物多様性について、市民として自慢や誇り、さらにそれを活かした産業創造の可能性等について意見を集約し情報共有します。

② 里山里海体験エコツアーと教育観光

伝統的農林漁業から生物多様性を有効活用する最新の農林漁業等を通じて、いすみ市の豊かな自然・文化にふれ親しみ、その素晴らしさを体験・体感する「里山里海体験エコツアー」や「フィールドミュージアム」事業、またそこに教育・学習を盛り込んだ「教育観光」等を展開します。

③ 生物多様性の「いすみブランド」商品

地域の自然・文化と生物多様性の持続可能な新しい農林漁業展開として、地域に自生する動植物をはじめ伝統的に栽培されてきた地域品種、さらには有害鳥獣をも利活用する農林水産製品の「いすみブランド」化を進め、その商品化を探ります。

④ 生物多様性産業の支援・誘致と情報バンク

いすみ市の生物多様性を持続的に利活用し、地産地消を基本として地域経済に貢献する企業を支援し、新たな企業を誘致します。そのため、いすみ市の市民団体や生物多様性にかかわる企業関係者、生物多様性保全の現場の担い手や有識者等による「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」を設置し、生物多様性を軸とした市の活性化の一翼を担う情報バンクとします。



峰谷宮農組合モデル水田 有機栽培による米づくりで高品質のブランド化を目指す

7) 生物多様性を担う組織・拠点の設置 [基盤整備]

① 生物多様性いすみステーション（仮称）の設置

いすみ市の生物多様性を担当する部署を明示するとともに、資料・情報及び標本を収集し、その適切な収蔵・管理と分析及びその情報発信、現場での保全・再生や保護・増殖等を担う拠点として「生物多様性いすみステーション（仮称）」を設置し、人材を確保します。

② 庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議の運営

いすみ市の生物多様性にかかる施策の推進について、市役所で定期的に協議をする「庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議」を設置します。副市長を総括とし、企画政策課、環境保全課、学校教育課、生涯学習課、商工観光課、建設課、農林水産課の各課が参画します。



いすみ市役所大原庁舎 現在、生物多様性にかかわることは農林水産課が担当



千葉県いすみ環境と文化のさとセンター 地域における自然体験活動の拠点となっている

外来生物はどうして いけないのですか？



キョンやアライグマは一見かわいらしく、増えてもかまわない気がします。しかし、もともとその地域にいなかった生きものが増えることで、とても深刻な問題が起こるのです。

◆農林業や漁業に大きな被害を与えます

千葉県内で放たれたイノシシは現在、大きな農業被害を起こしています。このような人への被害はキョンやアライグマ、ハクビシンでも年々増え、それは農家以外の人にも及んでいます。一度入ったこのような外来生物を取り除くことはとても困難です。

◆生態系のバランスがこわれます

今までいた動植物（在来種）を捕食したり、食べ物や繁殖場所を奪うので、競争相手が追い出されてしまいます。オオクチバスが放流された池では、在来の水生動物がほとんどいなくなり、いすみ市ではアライグマのためにイシガメが消えたと言われています。

◆在来種の遺伝子がかく乱されます

外来種が在来種と交雑することで、今までいた動植物の遺伝子が変わってしまい、在来種が消失するということになります。房総半島のアカゲザルはニホンザルと交雑し、雑種が生まれていますが、このままでは房総本来のニホンザルはいなくなってしまうのです。

◆感染症や人間への被害が起こります

ブタクサという植物は多くの人を花粉症で苦しめます。アライグマは屋根裏に入り、そこを糞尿で汚してしまいますが、「アライグマ回虫」という寄生虫を持ち、人間に感染した場合には、脳に達して急性障害を発生させ死亡する場合があります。そうした外来種の問題は、入ってくる前には予測できず後になってわかることが多いのです。

◆いすみ市で確認されている特定外来生物（外来生物法で指定されているもの）

特定外来生物は千葉県では31種が確認されています。その中で、いすみ市で確認されている特定外来種は、アライグマ、キョン、カミツキガメ、ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス、オオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、ボタンウキクサの10種です。そのほか、要注意外来生物としていすみ市にはミシシippアカミミガメ、タイリクバラタナゴ、アメリカザリガニ、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）、ムラサキガイが生息し、植物では、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、トキワツユクサ、ハリエンジュ、ホテイアオイなどが確認されています。

◆国内外来種（国内の他地域から移入したもの）

水辺の生きものを増やそうとメダカやホタルを放流する人がいます。ゲンジボタルは西日本と東日本で発光のしかたが違いますし、メダカも地域で違いがあります。国内の動植物であっても他地域から持って来ることで、その地域に固有の遺伝子が損なわれてしまいます。

外来生物を捨てたり、他地域の生物を放流したりすることは厳につつまなくてはなりません。



ウシガエル

3 取組事業

前節の「2. 対策から取組へ」では7つの柱を設定し、1つ1つの柱ごとに具体的な事業を示しました。しかしながら、この行動すべき取組を実行に移していくためには、さらに具体的な取組事業を設定することが必要です。

ここでは、窓口となる課（対応課）や取組の期間、さらに、その中でも重点となる事業を明示し、事業名と取組内容を列記していきます。

表の見方：事業種別について

- ・新規と既存については、「いすみ市総合計画」にすでに施策として示されているものを「既存」とし本戦略より提案されたものを「新規」としました。
- ・取組内容により「短期」と「中期」に分けました。その基準としては、
短期：2020年までに検討して実行に移すもの
中期：2020年までに検討、その後5～10年の間に実行に移すものとししました。
- ・重点の記載のあるものは、重点施策（リーディングプロジェクト）を示しています。

1) 里山里海の自然・文化の保護・保全 [環境改善1]

①いすみ地域の生物多様性調査

いすみ市の里山里海の生物多様性の現状と変化を把握するため、市全域の自然・文化について調査します。その際、特に生物多様性豊かな区域である「沿岸器械根域」、「海岸及び河口域」、「谷津及び周辺林域」、「夷隅川及び水源域」等については調査の重点地区とします。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
生物情報の収集（動植物いすみ調査会の設置、いすみ市の里山の生態系サービス調査会の設置、いすみ市の里海の生態系サービス調査会の設置）	農林水産課	新規 中期
生物情報の発信（生物多様性調査合同報告会の開催、いすみ市生物多様性報告書の作成）	農林水産課	新規 中期
事業件数 2 既存0・新規2・短期0・中期2・重点0		

寄せられた意見

器械根のモニタリングが必要／モニタリング体制、生物相調査の体制づくりが必要／植物のデータの集積を／自然環境調査の実施とデータの集積／調査、研究→訴えるものがある／いすみの自然の把握、データの集積を行う／モニタリング・生物相調査の体制づくりが必要／市民参加による野生哺乳類調査を展開しよう！／センサーカメラで市民が出没をモニタリングする（カメラは市からの貸出し）／高校生の調査に関わっている。調査をして結果を出し、高校生を通じて話題を広めていきたい／基礎資料・情報の整備／市民ボランティア等調査（戦略実施、進捗前後の生物系モニタリング調査）／教育・学習資料の整備／自然環境調査の実施とデータの集積／映像として未来に残す／マップを作成して情報を共有する／水系のリストアップ、水系のシンボルとしてのコウノトリ、ミヤコタナゴ、それらを支える生き物の種類、関係を明らかにする／生物多様性に限定した対策は不十分で、市のインフラを含めた環境保全整備、自然環境・景観に関して総合的な調査・計画がまず必要／自然環境情報の集積（GISに基づくデータベース等）／学術的、専門的自然環境調査（目録及び分布情報）／いすみ市の自然がどういう状態で把握されていない中で環境保全対策が行われている／現状を維持することに固執するのではなく、いすみ市として目指す方向をはっきりさせたい／柔軟性のある施策を検討する／学校や市のイベントとして生態系調査を実施すれば、子どもの自然とのふれあいが増し、生きものの尊さや自然環境に理解を深めることができる／自然を守る会等、市内にある自然活動をしている団体と協力をして、市内に何が生え棲息しているのか把握し保護していく。また、それらを、他の地方で同じ様な活動をしているところと交流し活動の活性化を狙う

② いすみ市の貴重動植物の保全・再生とモニタリング

いすみ市に生息・生育する、または、かつて生息・生育していた生物で、国レベル・県レベルでも貴重かつ絶滅が危惧される種（コウノトリ、アカウミガメ、イスミスズカケ、ミヤコタナゴ、コアジサシ、ゲンジボタル、イスマナガゴミムシ、ハマガニ等）や群集・群落（夷隅川河口干潟生物群集、海岸植物群落等）について保護・保全を推進します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
コウノトリが生息できる自然環境の整備	農林水産課	新規 中期 重点
「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」 との連携によりコウノトリの野外生息を目指す	農林水産課	既存 中期
国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」生息地の保全	生涯学習課	既存 短期 重点
国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」の保護増殖の推進	生涯学習課	既存 短期
ミヤコタナゴ保護増殖委員会の運営と自然保護観察員への対応	生涯学習課	既存 中期
ウミガメを守り育てる活動の推進	農林水産課・地域市民局	既存 中期 重点
ウミガメにやさしい海岸環境の整備	農林水産課・建設課 環境保全課・地域市民局	既存 中期
イスミスズカケの保護と自生地地の保全	生涯学習課	既存 中期
環境保全活動団体などへの補助	環境保全課	既存 中期
国指定天然記念物「太東海浜植物群落」の保護	生涯学習課	既存 中期
文化財の計画的な保存・修理と継承のための支援	生涯学習課	既存 中期
夷隅川河口湿地の保全と再生	農林水産課	新規 中期 重点
ゲンジボタルの保護	環境保全課	既存 中期
希少生物保護のための基金設立の検討	農林水産課	新規 短期 重点
冬水田んぼなど、コハクチョウ飛来地の環境整備	農林水産課・環境保全課	新規 中期
事業件数 15 既存 11・新規 4・短期 3・中期 12・重点 5		

寄せられた意見

ミヤコタナゴの保護では、貝の増殖が最大の課題であり、とりくむべきこと／護岸工事は、生き物にやさしい蛇籠（鉄製の籠に碎石をつめた）の護岸に切り替えている／ホテル等、街灯を嫌う生き物に配慮した照明を／水路づくりで生き物がたまる環境づくりの工夫を／トンボ沼の整備をする必要がある。水中生物にふれられるようにしたほうがよい／コウノトリなどの生物と共存できるように化学肥料をできるだけ使わない環境をつくる／学校教育の中でミヤコタナゴについて取り上げられていない。旧夷隅町時代には3つの小学校でミヤコタナゴを飼っていた／「コウノトリも住めるいすみ」は自然環境を知るためにもよい取組。特別な場所を守るだけでなく、自分の生活圏の自然に目を向け守っていくことが大切／ミヤコタナゴ保護には、多くの人がミヤコタナゴを知ることが大切。公共の場、いすみ鉄道の駅などに水槽を設置する／教育委員会では専門家を入れてミヤコタナゴ増殖委員会を組織して飼育と調査活動をしているが、野外のミヤコタナゴ保護のための具体策が何もない／具体的に何（ミヤコタナゴ、イスミスズカケ、アカウミガメ、イスマナガゴミムシ・・・）を守るのかを市民に周知させる／東地区のホテルのように、地域ごとの生きものを大事にしていかなければならぬ／マツ林の薬剤散布による海浜性昆虫類、干潟生物への影響を調べる。／ふるさと納税を工夫するなどして、希少種を守るための基金の設立をする。

③ 郷土の貴重な生物多様性のリスト化

いすみ市に生息・生育する、また、かつて生息・生育していた野生動植物や地域で育まれた栽培品種、さらに生物多様性関連の文化資産等についてのリスト化を進めます。特に貴重であり緊急対策の必要な種を「郷土生物多様性貴重種（仮称）」として選定し、至急の保護・増殖とモニタリングを推進します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
貴重な動植物をリスト化する（いすみ市RDB）※	農林水産課	新規 中期
貴重な種を「郷土生物多様性貴重種（仮称）」として選定する	農林水産課	新規 中期
地域で育まれた栽培品種や文化資産をリスト化する	農林水産課	新規 中期
事業件数 3 既存 0・新規 3・短期 0・中期 3・重点 0		



ヤマトマダラバッタ 砂浜にとけこむ保護色。海浜河口性のバッタで分布は限られる。千葉県最重要保護生物



クマガイソウ 絶滅危惧Ⅱ類



長福寺の筆かけの榎 頼朝伝説のある千葉県指定天然記念物。目通り幹回り 4.8m

寄せられた意見

絶滅危惧種がかつてどこで見られたのかを調べ、人々とどんな関わりがあったのかを調べ戦略に生かす／ミヤコタナゴがいた河川のリストアップをする／いすみ市の自然の現状把握。その後も情報の修正・追加をする。それをもとに将来のイメージを作り上げていく／植物のデータの集積と冊子化を／いすみ市版レッドデータリスト・ブックの作成

※いすみ市 RDB(レッドデータブック)：絶滅のおそれのある生物のリスト。いすみ版はまだ未作成。絶滅に瀕していることを具体的に示すことで保護の手立てが考えられる。

④生物多様性保護地域・保全地域の設置

生物多様性豊かな区域については、その豊かさを後世に伝えるため、「生物多様性保護地域・保全地域（仮称）」として設定し、その保護・管理と適切な利用を進めます。特に重要な生物の生息・生育環境については「生物多様性トラスト」等により土地の確保を目指します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別	
生物が多様な地域の創出に向けた取り組み	商工観光課・農林水産課	既存	中期
河川・海岸環境の保全	建設課・環境保全課	既存	中期
自然環境を保全する地域の設定など乱開発防止施策の推進	建設課・都市整備課・農林水産課・環境保全課・地域市民局	既存	中期
自然・森林地域の適正な保全と整備	農林水産課・地域市民局	既存	中期
（仮称）いすみ里山公園整備の検討	企画政策課	既存	中期
東地区市有地の土地利用の検討	企画政策課	既存	中期
「生物多様性保護地域・保全地域（仮称）」の設定の検討	農林水産課	新規	中期
ミヤコタナゴ保護モデル地区設定の検討	生涯学習課	新規	中期
事業件数 8 既存 6・新規 2・短期 0・中期 8・重点 0			



高田堰（通称トンボ沼） 過去にはヨツボシトンボやトラフトンボなどの希少種も観察されている

寄せられた意見

積極的に条例等を整備して戦略の実効性を高める。行政だけで困難な課題には民間の活力を利用していく。例：ミヤコタナゴ生息域保全条例、トンボ類集団生息域保全条例、ゲンジボタル生息環境保全条例、生物多様性戦略推進団体育成条例、国定公園内車馬等乗り入れ規制条例（国や県に制定を要請）など／ミヤコタナゴのいる河川地域を地域指定する／ミヤコタナゴを守る会が必要。モデル地区をつくる／自然環境保護区なるものを設定するとか…／保全区域を設けたり、見学施設を建設する／ミヤコタナゴの絶滅を防ぐには、生息地を丸ごと買い上げてモデル地区をつくる／市やＪＡの施策で最重要地域をどのように作っていくか。そして、実践者を明確にしていくことが必要／条例の制定が必要。採捕禁止生物を指定するのではなく、採捕してよいものを定める／市や地域の団体などが管理し、広報するのが良いと思う／ミヤコタナゴの保護を大がかりにやる必要がある／保全すべきものを明確にし、ここは守りましょうと可能な場所を限定すべき／市条例によるゾーニング／なるべく森林伐採や生きものの殺生をせず、今のままの緑豊かな環境を将来の世代に引き継ぐ／山林トラストで買取り／野生動物の保護区を作り、そこで調査研究を進める（増えないための研究など）／市内をゾーン分けした街づくり。徹底的に保護する区域、管理保全する区域、共存する区域、商業区域／いすみ市内の保護活動が市外に影響を及ぼすことも考えられるので、周りの環境にも考慮が必要／自然保護地域を指定したり、条例化したりして、自然環境を守る／休耕田を活用し、ドジョウなどの水辺の生きものの生息地となるようにする／宅地等の造成など、開発する場所に対して法律で規制する

⑤生物多様性ガイドブック等による情報発信

いすみ市の里山里海と生物多様性の現状について市民及び関係者にわかりやすく伝えるため、調査・モニタリング結果を適切に管理し、情報公開するとともに「いすみ生物多様性ガイドブック（仮称）」やガイドマップ、紹介映像等を作成し、その重要性についての理解を深めます。

取組事業	対応課	事業種別
文化財冊子の作成・案内板の設置・修理	生涯学習課	既存 中期
環境の保全を図るための施策の周知	環境保全課	既存 中期
広報紙などの活用による環境保全・公害防止意識の啓発と指導の推進	環境保全課	既存 中期
「いすみ生物多様性ガイドブック（仮称）」やいすみ市自然観察ガイド、調査ワークシートなどの刊行と活用	農林水産課	新規 中期
事業件数 4 既存 3・新規 1・短期 0・中期 4・重点 0		



夷隅郡市自然を守る会、千葉県立中央博物館分館海の博物館（勝浦市）、千葉県生物多様性センターが作成したガイドブック

寄せられた意見

市民が情報共有できるように、事務局からの情報発信を／いすみ市生物多様性読本（仮称）の作成と教育現場での活用／いすみ市の自然観察ガイドブック・いすみ市の自然調査ワークシートの作成と教育現場での活用／自然調査、いすみ市 RDB、ガイドマップ、資料集積、情報公開／いすみ市の各地区にいる生物で珍しいものについて、地図や看板で情報を伝えると保全の意識や子どもたちの興味につながる／「いすみの里山マップ」「いすみに生息する動植物マップ」の作成、等々、市担当課の積極的な行政主導で企画実践を希望する／いすみ市の自然環境に関する資料（環境マップや学校副読本）作成／植物の名前、虫、鳥、動物の名前、鳴き声などを教えていくとよい／学校や近所にいる生物や植物の写真や分布図をHPで公開する／来訪者への広報、いすみ市の方策を知ってもらう

⑥現場を担う人づくり生物多様性マイスター制度

いすみ市の自然・文化の調査・モニタリングや豊かな里山里海の保護・保全等の一翼を担う住民や団体を支援します。また、その活動に大きく貢献する個人・団体等については「いすみ生物多様性マイスター制度※(仮称)」として位置づけ、活躍著しい個人・団体を表彰します。

取組事業	対応課	事業種別
里山整備保全のための里山活動団体の活動促進	農林水産課・地域市民局	既存 中期
住民主体の自然保護活動の促進・支援	農林水産課	既存 中期
ボランティア活動の人材育成と拠点となるボランティアセンターの設置	福祉課・危機管理課	既存 中期
まちづくり団体・グループへの助成制度などの支援体制の強化	企画政策課	既存 中期
文化財保護・保全・活用のための専門職員の養成・確保	生涯学習課	既存 中期
環境保全活動団体などへの補助	環境保全課	既存 中期
生涯学習との連携によるボランティアバンク制度などの人材の確保・育成の仕組みづくり	生涯学習課・公民館福祉課	既存 中期
まちづくり活動や善行活動に功績のあった団体・個人への顕彰の検討	総務課	既存 中期
「いすみ生物多様性マイスター制度(仮称)」の検討	農林水産課	新規 中期
事業件数 9 既存 8・新規 1・短期 0・中期 9・重点 0		



小沢の耕作放棄地の復田作業



ボランティアによる海岸清掃

寄せられた意見

具体的な戦略に携わる組織や人々には有能な人材の育成や活動がしやすくなるような支援を推進することが望まれる／実行には地域の人々の知恵や力が不可欠である。個々の政策に応じ各地域で市民集会(タウンミーティング)を開き、意見集約を図ることが望まれる／保全清掃ボランティア、生物多様性指導員、郷土種保護育成員、里山里海マイスター等／戦略に関係した有能な人をリクルートする／いすみ市の自然環境の教育を、外部の専門家に頼む／保全や利用がどんな必要性・重要性をもち、どんな恩恵をもたらすのかを理解することが出発／極力ボランティア、子どもたちなどによる、市民参加型が望ましく、税金を使った予算は極力少なくすべき。里山等の保全を継続して行くには、高齢者の活用しか無いと感じます。シルバー人材センターの育成・充実は図れないでしょうか？／里山の手伝いを体験させ、里山整備をする／いすみ自然環境検定(仮称)の実施

※いすみ生物多様性マイスター制度：生物多様性についての知識や技術を習得して、その保全・再生を実践し、普及啓発する人材を養成する制度

2) 里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理 [環境改善2]

①放棄・荒廃地の情報集約

いすみ市の里山里海の放棄・荒廃した場所や実態について「放棄・荒廃地実態調査（仮称）」を行い、その現状を把握します。マップ上に場所と放棄・荒廃の現状（かつての土地利用形態、放棄・荒廃の面積、地権者、管理の現状、放棄からの年数、現在の植生、ゴミや廃棄物の量等）についての情報を集約します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
土砂等の埋め立てに対するパトロールなど監視体制の強化	環境保全課・地域市民局	既存 短期
不法投棄の防止	環境保全課・地域市民局	既存 短期
器械根の調査の継続及び人工漁礁設置の促進	農林水産課	既存 短期
耕作放棄地情報の適切な提示	農林水産課	新規 中期
器械根の生物調査・資源量調査、海域環境のモニタリング	農林水産課	新規 中期
事業件数 5 既存 3・新規 2・短期 3・中期 2・重点 0		

寄せられた意見

里山里海の現状を整理し、生物多様性戦略を推進する上で何が支障となっているかを把握する必要がある。その情報を今後の戦略推進の基礎資料とする／新規就農者であるが、空いている農地がどこにあるのかから、地権者に会うまでが大変／市役所に行けば、空いている田んぼ・農地などの情報が簡単に入手できるようにする

②里山里海の恵み（生態系サービス）の認識

里山里海の生物多様性の豊かさと地域の人々にもたらす価値「生態系サービス」、また、その再生・管理の必要性についての普及啓発を進めます。そのため、学校での体験型の「生物多様性教育」や住民・来訪者を対象にした「里山里海体験ツアー（仮称）」等を企画・実施しその重要性についての理解を進めます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
小・中学校での「生物多様性教育」	学校教育課	新規 中期 重点
住民・来訪者を対象に「里山里海体験ツアー（仮称）」を企画・実施する	商工観光課	既存 短期
自然と共生する里づくり連絡協議会による市民対象のシンポジウム実施	農林水産課 商工観光課	既存 短期
市民対象の生きもの観察会の実施	農林水産課	既存 短期
事業件数 4 既存 3・新規 1・短期 3・中期 1・重点 1		

寄せられた意見

自然環境を守るには個々の意識が大切だと思う。いすみ市の自然のすばらしい所を広報など、もっと市民に気付かせるような工夫をしてほしい／まず、身の回りの自然の素晴らしさに気付かせるような活動を取り入れ、次に守っていくのは自分たちであるという意識を高める。守らないとどうなるか／器械根の認知度アップ・広報戦略・漁師体験・ブルー・エコツーリズム推進／政策の不備・テトラによる護岸整備・合併浄化槽の普及不足・器械根の認知度不足

③里海の海洋資源の利用・管理システムの整備

海岸海域の生物多様性と漁業資源の確保のため、乱獲や海洋投棄を禁止し、海洋資源の持続的利用を基本とする将来計画や利用基準を策定して沿岸域生態系の再生・管理と監視の体制を整備します。その際、かつての里海の利用・管理の知識を取り入れます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
器械根の調査の継続および人工漁礁設置の促進	農林水産課	既存 中期
「環境基本計画」の策定	環境保全課	既存 中期
「地球温暖化防止対策実行計画」の策定	環境保全課	既存 中期
開発業者との環境保全協定の締結による自然と調和した開発の指導	建設課・環境保全課 都市整備課	新規 中期
事業件数 4 既存 3・新規 1・短期 0・中期 4・重点 0		



大原漁港の出漁風景 大原漁港はイセエビの水揚げが単独漁港では日本一

寄せられた意見

生態系配慮型環境整備・護岸整備の見直し・ラグーン浚渫・藻場育成・河川改修・浄化槽整備補助の充実／漁業流通システムの工夫・漁師市場（直売所）・6次産業化／テトラ以外での海岸線保全／いすみ版海洋基本計画の策定／資源管理型漁業による魚価アップ／藻場形成事業を行う／大原港に上がった魚類の直接購入できる仕組みを／陸上養殖・種苗法流など資源増大を図る／いすみの望ましい農林漁業が目指すところ（環境、漁業を軸に）健全に管理された山からの養分が、生活排水のない清冽な川を経て、海へとつながり、健全な藻場、岩礁で育まれた海の資源を計画的な漁業で支え、海山の「食」の宝庫として、市民が享受する生活満足度の高い地域になり、結果、地域の魅力度が上がり、経済の活性化につながるという、長い展望を持った戦略にする／資源の枯渇による漁業の後退・藻場の喪失・磯焼け・獲るだけの漁業・魚価低迷・担い手不足／漁獲の定常的確保のための定置網、養殖などの投資が必要／漁獲圧のかかりすぎない方法で獲られた魚介類を消費するしくみづくりを

④里山の生物多様性農業の展開

生態系を劣化させ人体にも影響を及ぼす農薬や化学肥料の利用を減らし、農薬の空中散布やネオニコチノイド系農薬使用の自粛を進め、生物多様性の向上とその持続的利用に基づく「有機農業」や「冬期湛水」などの取り組みを支援・拡大させます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別		
自然と共生する里づくり	商工観光課・農林水産課	既存	短期	重点
環境保全型農業の推進	農林水産課	既存	短期	重点
地元産米の消費拡大	学校教育課・福祉課・農林水産課	既存	短期	
遊休農地を活用した新規産物の検討	農林水産課・地域市民局	既存	短期	
流通経路の追跡可能性（トレーサビリティ）及び 農業生産工程管理（GAP）の推進	農林水産課	既存	短期	
環境保全型農業と経済の自立促進・支援	農林水産課	既存	短期	重点
環境保全型農業基盤の整備促進	農林水産課	既存	短期	重点
新規就農者への支援	農林水産課・地域市民局	既存	短期	
自然と共生する里づくり環境保全型農業連絡部会の運営	農林水産課	既存	短期	
自然と共生する里づくりモデル水田事業	農林水産課	既存	短期	重点
有機農業推進協議会の設置	農林水産課	既存	短期	
有機稲作指導者の招聘	農林水産課	既存	短期	
夷隅農業事務所と連携した実証試験	農林水産課	既存	短期	
実証試験に参加する農業者への支援	農林水産課	既存	短期	
環境保全型農業直接支払制度の積極的活用	農林水産課	既存	短期	
農薬の空中散布とネオニコチノイド系農薬使用の自粛	農林水産課	新規	中期	
有機農産物の学校給食への導入	農林水産課・学校教育課	新規	短期	
事業件数 17 既存 15・新規 2・短期 16・中期 1・重点 5				

寄せられた意見

行政が有機農業をバックアップしていく取り組みが重要／自然と共生する里づくりで有機稲作に取り組み営農組合をバックアップするような取り組みが重要／小規模農家は有機農業で、大規模農家は慣行農業でというようにすみわけを考えることが必要／いすみ市の豊かな田畑を守るため、土壌・水・空気にやさしい栽培法を奨励していく／市で推進している自然と共生する里づくりの事業に協力し、推進する／有機農業と慣行農業をする人たちが互いに情報をオープンにして話し合いができる場を作る／農業就労モデル地区を作り成功例を発信していく／新規就農希望者を支援することで地域を活性化できると思う／営農組合以外にも、株式会社という方法もある。いずれの場合も、地域全体で農業と農地の保全をすることに心配りをしていくことが重要である／大規模な農薬散布を減らす方向で進めたらどうか／道路の周辺の除草剤の使用を禁止してもらいたい！子供が安心して草花を摘んだり出来ないし、犬が死ぬ！除草剤を使用したなら看板を立てるとか徹底してもらいたい／農薬の空中散布は止める方向で考えてほしい／ヘリコプターの空散をラジコンヘリによる防除に変えて欲しい／空散をやめるために、他にどんな方法があるのかを示す／無農薬稲作、野菜作りの楽しさをリアルタイムにインターネット上で発信する／肥料・除草・薬品について研究することが必要。竹パウダーの活用など

⑤里山林の再生管理と利活用

現在、里山林の多くが放置され、しばしば人に被害を及ぼす野生鳥獣の生息地となっていますが、かつては燃料や肥料、建材などに利活用されるとともに生物多様性の重要拠点でした。多くの人々の支援と協働によって再生・管理し、広範な利活用を図ります。

取組事業	対応課	事業種別
伐採の実施など森林の保全と育成	農林水産課	既存 中期
自然・森林地域の適正な保全と整備	農林水産課	新規 中期
森林の間伐作業や下刈りなど人手がかかる作業を行うグループへの支援	農林水産課	新規 中期
事業件数 3 既存 1・新規 2・短期 0・中期 3・重点 0		



木材の集積場 戦後植えられた多数の杉苗が収穫期を迎えたが、採算がとれず多くが放置されている



斜面林から切り出しシイタケ菌を打つ



薪づくりイベント

寄せられた意見

木質資源のエネルギー活用・薪、チップ、ペレット燃料の普及・竹材利用研究（建材・肥料）／山・竹林景観整備条例、所有と利用の分離・CO2 買取り認証制度の導入・山林トラスト運動／木質資源によるエネルギー活用の総合計画を策定する／山林所有者への管理義務化と補助制度／落葉広葉樹への樹種転換による認証林制度／放置されている杉山の活用、落葉樹への移行を／山林、竹林の大規模な間伐やカットにより、問題は大きく改善できる／竹材活用計画と実験（肥料化、建材化）を／保安林のあり方について／薬剤を使わないように樹種転換を図るべき。必要のないところは海岸林をなくす

⑥山・川・海への連続性と水辺再生

山から海への生物的連続性の回復のため、潮止め堰の撤去または魚道づくり等をおこないます。また、海岸や河川護岸のコンクリート構造物については素材を木材や石材に変更し、さらに岸辺を土や砂、基盤層に戻し水辺を自然の状態に近づける対策をおこないます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
ふるさとの川づくりの推進	建設課	既存 中期
開発業者との環境保全協定の締結による自然と調和した開発の指導	建設課・環境保全課 都市整備課	既存 中期
準用河川の改修の推進（初音川・神置川・上塩田川・椎木川・正立寺川・桑田川・山王川・ビチャ川・松丸川）	建設課	既存 短期
2級河川の整備促進（夷隅川・落合川）	建設課	既存 短期
河川の環境保全	建設課	既存 中期
排水路の整備	建設課	既存 中期
海岸保全事業の推進	建設課	既存 中期
ウミガメにやさしい海岸環境の整備	建設課・農林水産課	既存 中期
道路・河川・海岸など身近な地域環境美化の推進	建設課・農林水産課 商工観光課・環境保全課	既存 中期
「美しい山河を守る災害復旧基本方針」に基づいた、河川災害復旧事業における河川の自然・生物保護のための、自然にやさしい多自然型工法護岸工事の取組	建設課	既存 中期
事業件数 10 既存 10・新規 0・短期 2・中期 8・重点 0		

寄せられた意見

防潮堤関係（海岸保全基本計画、北岸、江場土川の工事）／海岸にテトラ投入を繰り返すのではなく、ほかの方法を模索する／必要のない開発は避け、できるだけ自然を残す／夷隅川流域の保全のための整備を県に働きかけては／生態系に配慮した河川改修／日在浦～和泉浦のサイクリングロードをなんとかする（エコトーンの消失）／コアジサシ、シロチドリ営巣地の攪乱／河川沿いの道を整備してはどうか／廃棄物抑制、リサイクルの徹底を／水害について地方では、河川工事は環境を破壊する恐れがあるため両側を一段下げ、散策道等にして河川の一部にし水害対策としている／海と川を行きかう生き物の障害として潮止堰がある。魚道の設置が急務／水田・堰・沼などの身近な自然環境を大事にし、魚釣りが安全にできるように整備する／水路・河川をコンクリートで固めず、生きものが住みやすい護岸工事を希望する／河川の浄化に力を入れて水辺環境を改善すれば、生物や子どもが集ってくる／環境配慮型の河川改修など、公共事業を推進するうえで、環境に視点を置いた取り組みが必要／ホテルが自然発生する地域が増えていくような農村環境作りを進める／ラグーンの浚渫を／いすみ市を、きれいな水、小さな魚、植物の宝庫にしたい／川遊びができる場所を作り、コンクリートで固めるのではなく、ゴミを無くし、竹等を整理して、川から見る景観も整え、美しい夷隅川を作る／木質資源のエネルギー活用・薪、チップ、ペレット燃料の普及・竹材利用研究（建材・肥料）／山・竹林景観整備条例、所有と利用の分離・CO2 買取り認証制度の導入・山林トラスト運動／木質資源によるエネルギー活用の総合計画を策定する／山林所有者への管理義務化と補助制度／落葉広葉樹への樹種転換による認証林制度／放置されている杉山の活用、落葉樹への移行を／山林、竹林の大規模な間伐やカットにより、問題は大きく改善できる／竹材活用計画と実験（肥料化、建材化）を／保安林のあり方について／薬剤を使わないように樹種転換を図るべき。必要のないところは海岸林をなくす

⑦監視体制と里山里海の担い手育成

放棄された田畑・山林や海洋に、ゴミや廃棄物の不法投棄が生じないための監視体制を強化するとともに、地権者への助言・支援の体制を整備します。また、谷津田や山林の再生のための「援農」や「市民農園」を推進し、さらに「生物多様性トラスト」や農林業への従事を希望する個人及び団体への土地の斡旋・仲介体制等を推進します。また、里山里海の生物多様性に基づく農林漁業体験の機会を設け、新たな人材を育成します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
新規就農者の支援	農林水産課・地域市民局	既存 短期
不法投棄の防止	環境保全課・地域市民局	既存 短期
耕作放棄地所有者への助言・支援	農林水産課	新規 短期
耕作放棄地の活用法としての市民農園の推進	商工観光課	新規 短期
農林漁業体験の推進	商工観光課・農林水産課	新規 短期
事業件数 5 既存 2・新規 3・短期 5・中期 0・重点 0		



中学生の漁業教室（イセエビの網はずし体験）



稲作の学習 古沢小学校



梨の収穫体験 古沢小学校



小学生のヒラメ稚魚放流

寄せられた意見

夷隅川などの河川を流下する流竹木や生活ゴミ等の問題は、流域全体の問題であるので、関係する市町と連携した管理体制や組織の整備を図る／耕作放棄の田畑を、都市部の人や退職者などに貸し出す。企業などの団体（社員の活動で）もよいと思う／人間活動の増加（消費によるゴミ）と減少（質の低下によるゴミ）を分けて考える／子どもたちにゴミ捨ての問題を勉強させる。ゴミがどのように環境に悪影響を与えるか

いすみんと学ぼう⑩

環境創造型農業ってどんな農業ですか？

農薬や化学肥料を使っていない田んぼを観察すると、カエルやドジョウ、クモやトンボなど様々な生きものがあふれる豊かな生物多様性を見ることができます。

このように生物多様性の保全や地球環境に配慮した人と環境にやさしい農業は「環境保全型農業」と呼ばれています。農薬や化学肥料を通常の半分以上に減らすことを指標とするこの「環境保全型農業」から、いすみ市はさらに一步進んで、農薬や化学肥料、遺伝子組み換え技術を全く使わない有機農業など、より積極的に環境に貢献することを理念とした「環境創造型農業」の推進を目指しています。

農薬や化学肥料の使用を減らす、使わないといったことの他にも、冬の田んぼに水を張ったり、田んぼの周りにビオトープを設けたり、水路と田んぼの間を魚道でつないだりすることなども生物多様性の保全に大きく貢献することができます。



井沢モデル水田
いすみ米は千葉県三大米で
おいしいお米として知られ
ている。

いすみんと学ぼう⑪

ミヤコタナゴはいなくなってしまうのですか？

現在、ミヤコタナゴが野生の状態で確実に見られるのはいすみ市を中心としたその周辺（御宿町、勝浦市、一宮町など）です。ミヤコタナゴを研究されている方は、「このままではもうすぐいなくなってしまう」と心配しています。



ミヤコタナゴは、マツカサガイなどの二枚貝が生きるきれいな水の流れる水路に生息します。コンクリートの水路では二枚貝はほとんどすめません。土の水路は維持が大変で、草を刈ったり土を上げたりする人がいなくなると二枚貝もミヤコタナゴも見られなくなります。

ミヤコタナゴの保護には、伝統的な米づくりに培われた昔ながらのかつての水田や水路、ため池の保全・管理が重要です。



3) 外来生物・野生鳥獣害の防除・管理 [環境改善3]

①外来生物・野生鳥獣の生態と被害の現状把握の連携・協力

いすみ市の外来生物及び野生鳥獣の分布・生態と被害の状況について把握するための調査・モニタリングをおこない、その情報共有と課題の深刻さについての普及啓発をおこないます。そのため、市民や農林水産業従事者、生物・生態系の専門家、周辺自治体や県の農林水産や環境関係の行政、また千葉県生物多様性センター等との連携・協力を推進します。

取組事業	対応課	事業種別
外来生物及び野生鳥獣の分布・生態と被害の継続的な調査・モニタリング	農林水産課	新規 中期
問題のある外来生物についてリストを作成する	農林水産課	新規 中期
外来生物の実態や問題についての市民や児童生徒への周知	農林水産課・学校教育課	新規 中期
千葉県生物多様性センター等との連携・協力	農林水産課	新規 短期 重点
千葉県農林水産課・自然保護課との連携・協力	農林水産課	新規 短期
事業件数 5 既存 0・新規 5・短期 2・中期 3・重点 1		



無人カメラで撮影されたイノシシやキョン

寄せられた意見

外来生物の増加はなぜ問題なのかを明確に説明する必要がある。園芸植物の種子拡散や廃棄後の繁殖、放飼されたペット類や展示動物の野生化、狩猟や魚釣りの対象動物の放飼など、個々の生物についてわかりやすく説明することが望まれる／農林水産業被害や生活被害で問題となる野生鳥獣を整理し、個々の加害動物について被害の防止方法や駆除方法を説明する必要がある／アライグマの現状把握するためのモニターをつくり、専門部署を設ける／高校生の調査に関わっている。調査をして結果を出し、高校生を通じて話題を広めていきたい／センサーカメラで市民が出没をモニタリングする（カメラは市からの貸出し）／集落ごとの被害情報を共有できる仕組みを作る／鳥獣害の現状を認識し、危機感を共有するために、区会・区長会を中心とした意見交換及び意見の集約を進める／活動に協力したいと思っていてもどうしたらいいかわからない。情報発信に一工夫を！／獣害被害の周知徹底、広報（アライグマがいることさえ知らない人がいる）／野生動物の危険性を市民に広報する／野生鳥獣の被害の現状を多くの市民に知ってもらうようにし、対策については広く市民の意見を募っていく／野生動物の被害問題は農業者だけの問題ではないのか。そうでない点があれば、それについて市民への説明が必要である／被害状況を数字だけではなく、ビジュアルで分かるように広報する。市のHPを活用する／アライグマやイノシシが媒介する情報を伝える

②被害の対策協議会と防除・管理の計画と実施

外来生物・野生鳥獣害にかかわる関係者や専門家等による「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置し、その実態把握及び情報共有の基に、被害分析や対策の研究を進めるとともに、外来生物及び野生鳥獣の被害の防除・管理計画を策定し、具体的管理活動を推進・支援します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
有害鳥獣駆除対策の継続実施	農林水産課・地域市民局	既存 短期
森林の適正管理のための間伐などの促進	農林水産課	既存 中期
イノシシ、小動物駆除の委託や電気柵設置の補助	農林水産課	既存 短期
駆除活動の指導・拡大	農林水産課	既存 短期
「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置	農林水産課	新規 短期 重点
里山の生物多様性を脅かす諸要因の排除	農林水産課	新規 短期
事業件数 6 既存 4・新規 2・短期 5・中期 1・重点 1		



捕獲されたアライグマ



特定外来生物のオオフサモとスクミリンゴガイ

寄せられた意見

農林業関係者、漁業関係者、狩猟従事者、地域住民、各種関連団体等が協働して野生動物の被害の現状把握を行い、被害防止や駆除が行えるような組織の整備が必要である。この組織が行う活動に関し、市はきめ細かな情報発信を行うことが望まれる／外来生物の存在を普及啓発するために、一定の区域で徹底した駆除を行い、駆除の効果を示すモデル地区を作ることが望まれる（アメリカザリガニ駆除地区、スクミリンゴガイ駆除地区、ミシシッピーアカミミガメ駆除地区、イノシシ防除地区など）／動物の習性を専門家にアドバイスしてもらい、習性に即した対策を考える／生活に害を及ぼすイノシシ、キョン、ムジナなどをどうするか、定義をはっきりさせ、守るべきものとの関わりを考えていく／外来種問題に対する具体的な対策が必要／イシガメを保護するにはアライグマ対策が必須／電気柵を設置する労力とその後の管理の労力は大きい。補助があると助かる／害獣駆除が経済につながる方法の確立（狩猟の報酬、食肉、その他）／野生動物の食糧化の可能性を追求する（「ジビエ」料理の推進はどうか）／家への侵入阻止のために、地権者に対する警告ないしは協力要請を出す／地権者が管理しきれない土地について、今後は公的に管理する／ワナをもっと自由に使えるように制度改正すべき／狩猟の振興（害獣が増える理由は天敵の欠如→人が天敵となって減らす）／まずアメリカザリガニなどの外来種の徹底した駆除を／人間に害を及ぼす動物の冬季に手に入れることができる餌を減らす。そのことで、繁殖を減らしていく／集落を囲む柵を設置する／当面は電気柵で対応する方向で考える

③「外来生物・野生鳥獣対策レンジャー（仮称）」制度

被害対策の現場で、その実施の指導者を養成します。地元の猟友会や外来生物及び野生鳥獣専門家等による被害対策講座や外来生物や野生鳥獣害についてのシンポジウムを企画し、地域の実情に合った防除・管理の具体的対策を検討し実行する「外来生物・野生鳥獣対策レンジャー※(仮称)」を設置します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
被害対策講座や野生鳥獣シンポジウムを実施	農林水産課	新規 中期
外来生物・野生鳥獣対策レンジャー※(仮称) を設置	農林水産課	新規 中期
事業件数 2 既存 0・新規 2・短期 0・中期 2・重点 0		

寄せられた意見

狩猟従事者が減少し高齢化している状況で、合法的に外来生物や加害生物の防除及び駆除が行えるようにするための新たな従事者の養成、効率の良い駆除方法の技術普及を行う必要がある／市役所が音頭を取って、山林掃除隊、休耕地草刈隊、海岸流木始末隊等々のボランティアを募る／猟友会と市民が協働できる組織・システム作りをする／アライグマは在来種を食害するので「自然と共生するいすみ市」の敵である。「市民が一緒にできる対策」がとれるようにできるとよい

※外来生物・野生鳥獣対策レンジャー：外来生物や野生鳥獣に対する専門的知識を持ち、その現場の現状把握と具体的な対策を担当する専門家

④里山里海再興の人づくり

外来生物・野生鳥獣害の防除・管理の前提となる里山里海の再興の人づくりを進めます。被害の温床となっている耕作放棄地や放棄森林等を再生して、外来種生物や有害野生鳥獣が生息・生育しにくい環境づくりをおこない、その状態を維持管理する人材を確保・増加させます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
森林の間伐作業や下草刈りなど人手がかかる作業を行うグループへの支援	農林水産課	既存 短期
里山の生物多様性を脅かす諸要因の排除	農林水産課	新規 中期
農林水産業の後継者の育成	農林水産課	新規 中期
事業件数 3 既存 1・新規 2・短期 1・中期 2・重点 0		

寄せられた意見

高齢化とイノシシの対策をしないと、山は荒れていくだけになってしまう／まず「生物多様性」というものを教えないといけない。アンケートの説明でもよくわからない。保全していく上で、駆除されるカラスやイノシシ、キョンなど、なぜ駆除されるのか、きちんと子どもたちに伝えることも必要だ／農業被害を減らすには、農業全体の活性化を図り、農業人口を増やすことが必要。いすみの農産物のよさを大きく PR し、農業従事者に物質的・精神的な報酬を高める工夫をする／「自然との共生」とはどういうことなのかもっと明確にし、経済的活性化との両立の中で実現したり目標を樹立するための柱は、農業と漁業として両立を考えていくという方向が必要ではないか／一般市民の狩猟に対する理解を深める／生物多様性をいすみ市のシンボルとして経済活動に結びつける。人として心地よい環境は生物多様性が守られているところだと考えるので、故郷に歌われた世界がここにある。このことをテーマにまちづくりを発信させて、都会の人を招き入れて、都会の人が住みたい町として魅力づくりをして、利用活用する／第一次産業、特に林業の後継者を育成する／森の生態、浜の生態を知って、守り、環境を活用する市民活動を応援していただきたい／行政で手が回らない分野は民間でやる

4) 地域環境や先人の知恵の学び・継承 [普及利用1]

①地域環境の資料・情報と先人の知恵の調査

いすみ市の人々が自然と調和・共存し持続可能な生活を営んでいた里山里海の自然・文化についての記録資料や生活用具や防災器具等のモノ資料を収集・保管するとともに、土地の古老への「聞き書き」等による調査を実施し先人の知恵を集約します。地域環境や先人の知恵と重要性について、子どもから大人までの幅広い世代にわかりやすく紹介するガイドブック「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」やマップ、映像等を作成します。

取組事業	対応課	事業種別
歴史、伝統行事を活用した地域活性化の推進	生涯学習課・公民館	中期 新規
地域の里山里海文化の記録の収集と保存	生涯学習課	中期 新規
「総合的な学習の時間」に地域の古老への聞き取りを行う	生涯学習課	中期 新規
「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」の作成	生涯学習課	中期 新規 重点
地域環境や先人の知恵に関わる映像やマップの作成と活用	生涯学習課	中期 新規
事業件数 5 既存 0・新規 5・短期 0・中期 5・重点 1		



大原はだか祭り 勇壮豪快関東随一と称される伝統の秋まつり

寄せられた意見

天然記念物を含む文化財を活用した郷土教育／学校教育者、市民団体等への情報、資料、人的支援環境を整備／いすみ市の良さに気付いていない人に、外から来た人（港の朝市、いすみ鉄道、はだか祭など）に感想を言っていただき、VTRで撮り、子どもたちに見せたり役所や大原駅で流す。子どもがいすみ市に誇りを持てば未来につながる／知識教養のある指導者の人が必要／学校や家で話し合える資料があったらよい。生活科で取り入れて興味を持たせるのもよい／小さい頃の体験を知るといことが守ることにつながる／ミヤコタナゴのいた時の環境を知ることが大事／いすみ市の生物多様性の素晴らしさを他の地域と比較するとみんなに認識される

②小・中学校の生物多様性教育

小・中学校の授業の一環として、生物多様性教育を推進します。食育をはじめ地域の自然・文化の素晴らしさや先人の知恵についての授業、体験・体感を通じて地域の自然・文化と生物多様性と人々のかかわりについての学習を進め、地域に対する誇りを育みます。

取組事業	対応課	事業種別
子ども一人ひとりの能力・適正や地域の特性に応じたカリキュラムの開発	学校教育課	既存 中期
学校教育や生涯学習などによる環境学習の推進	学校教育課・生涯学習課 環境保全課	既存 中期
学校教育や生涯学習など体験教育の場としての自然環境の活用推進	学校教育課・生涯学習課 環境保全課	既存 中期
生きもの探し体験や自校田んぼによる田植え・稲刈り体験(小5年)	学校教育課	既存 中期
いすみ市の人と自然との共生を学ぶ(中1年)	学校教育課	既存 中期
教員の生物多様性や自然体験活動、野外環境学習などの研修会の実施	学校教育課	新規 中期
いすみ市の生物多様性に関するカリキュラムの開発と各学年の教育課程への位置づけ	学校教育課	新規 中期 重点
コウノトリを題材にした教材の活用やモデル水田の見学と活用	学校教育課	新規 中期
各小学校に水田ビオトープの創出と水田の生きもの観察・調査	学校教育課	新規 中期 重点
事業件数 9 既存 5・新規 4・短期 0・中期 9・重点 2		

寄せられた意見

子どもたちが自然を学ぶために各小学校の校庭の片隅にビオトープを作り生きものを体験させるのが良いのではないか／いすみ市の学校教育の中に、いすみ市の自然を知る体験をきちんと組み入れる／地域の高等学校のカリキュラム上に「生物多様性関係の講座」の位置づけ／小中高連携授業・講座の開設、高大連携授業・講座の開設／小・中学校での教育を通して、子どもたちに自然や生き物とどのように共存し、環境を守って行くのか「自分で考える」という経験をさせることが大切と思う／何で守らなくてはいけないのかを子どもに分かりやすく教えて欲しい。家庭で教えるだけでは足りないように思えるので、学校などで授業に盛り込んで欲しい／地域や自治体が中心になって、小・中学生に対する教育をしていくことが重要。週休二日制になったのは、そのような活動をするためである／各学校にビオトープなど、生き物を身近に感じる場をつくる／小・中学校等における自然環境教育・学習の環境を充実させる／海についてもっと掘り下げた専門的な体験学習を取り入れてはどうか。いすみ市の海の生態系や、ウミガメ保護活動などを低学年から体験できるように工夫したり、海岸清掃したりする事で海への理解を深める／私有林をもっと学校教育に活用し、子どもたちに自然を学ばせる／いすみ市の学校の教育課程にいすみ市の環境教育を位置づける／「総合的な学習の時間」とのタイアップ、小・中の連携が必要／自然の大切さを小学生に話す。親につながり親も関心を持つようになる／生物多様性に関する教育体制の整備と学習支援／観察会を開いたり、学校に生物の専門家を呼んで勉強会を開くのがよい

③持続可能な里山里海の暮らしを学び継承する「フィールドミュージアム」

生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座・観察会や探訪会、シンポジウム等を企画するとともに現地の自然・文化そのものを体験し、学び、守り伝える「フィールドミュージアム※」等において、その先人の知恵を発掘し継承していきます。

取組事業	対応課	事業種別
生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座開催	農林水産課	新規 中期 重点
自然と共生する里づくり連絡協議会による市民対象のシンポジウムの実施	農林水産課・商工観光課	新規 中期
里山里海の自然・文化を学び体験フィールドミュージアム事業の実施	農林水産課	新規 中期
事業件数 3 既存 0・新規 3・短期 0・中期 3・重点 1		



自然観察会（いすみ環境と文化のさと）



生きもの観察会（古沢小学校）

寄せられた意見

学校（学童）と連携したフィールドミュージアム／東小の蛍保護活動、浪花小の磯観察など、学校の枠を超えて参加できるとよい／蛍鑑賞会、ザリガニ釣り、生きもの調査などの子どもたちが自然と触れ合える機会の設定と広報を／ゲンジボタルや新種の生物、植物と海の生物などについて学ぶ機会や触れ合う機会をもっと多くし、体験しながら考える授業がもっと必要／もっと水田や畑の手伝いをさせ、興味を持たせる／もっと、課外授業や地域活動などでネイチャーセンターを活用する。また、センターの講師を派遣してもらい出張授業をしてもらうことが必要／自分たちでは自然観察し環境を知るのは難しいので、いろいろな行事を開いてほしい／自然とふれあうことは学問の基礎を築くもので、詰め込み学習ではなく、体験して初めて身に付く有意義な勉強／コウノトリが「飛来する郷」から「住み続ける郷」へ「環境整備や農業問題」を、「大人と子どもが共に学べる自然観察会」などを／行政で環境に配慮した地域を増やす／行政で教育現場の環境を整える／多くの方に豊かな自然の素晴らしさを実感してもらうところをつくる／大人が「子どもたちが安全に生きものに触れ合える場所」を作ってやるのがよい／子どもたちが自然と多くふれあうことができるイベント、環境づくりを進めていく／自然とふれあう体験を通して子どもたちが多くの気づきを得、生きものを守り利用していく知恵につながっていく／子どもたちに、生物多様性の中で、生活がどんなに恩恵を受けているかを具体的に知り、特に衣食住をはじめ健康な生活を支えてくれていることを実感させる。生きものをどう守りどう利用するかについて認識を深め感性を育てる／子どもたちの2次産業への職場体験活動／実施可能なプログラムと講師等提供団体の取りまとめ（環境学習プログラム集の作成）

※フィールドミュージアム：地域の自然や文化を資料や展示としてとらえ、それにふれ親しみつつ調査研究してその素晴らしさ学びながら保護・保全していく活動

④いすみ市の環境や先人の知恵を伝える人づくり

子どもたちや来訪者に、いすみ市の環境や先人の知恵をわかりやすく伝える人材「いすみ自然・文化ミショナリー※(仮称)」の育成を進めます。特におばあちゃん、おじいちゃんが孫の世代に対し、昔の生活体験の語りを通じて自然と調和する人の生活文化や生物多様性を持続的に利活用する知恵や技術を伝承するプログラムを推進します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
いすみ子育てジャンボリー※(幼児と保護者)の開催	生涯学習課	既存 短期 重点
アグリライフ連絡協議会による食育の推進	農林水産課	既存 短期
環境学習会の実施	農林水産課	既存 短期
「いすみ自然・文化ミショナリー※(仮称)」の育成を検討	農林水産課	新規 中期
事業件数 4 既存3・新規1・短期3・中期1・重点1		



お飾りづくり (いすみ環境と文化のさと)



竹籠づくり教室 (いすみ環境と文化のさと)

寄せられた意見

学習指導者等の育成、指導者派遣制度の整備／「生物多様性」という言葉が大人も子供もわかりにくいので、親子で一緒に学んだり体験できる機会があるとよい／生涯学習人材バンクの活用／学校の体験活動に積極的に関わることでできる団体の育成／学習指導者等の育成、指導者派遣制度の整備（農林漁業インターンシップの仲介制度、講師の人材バンクや派遣）／講師の育成、派遣制度等（環境学習会、エコツーリズムの講師、公共事業における自然環境への配慮の提言、ビオトープ造成、維持管理の指導者、市民調査における講師）／指導者の育成、職員研修市民調査における講師）／指導者の育成、職員研修を／ビオトープ、子ども樹木博士／指導者育成、団体育成をする／いすみ市の自然がどれだけ豊かであるか、専門の方から子どもたちに話してもらおう／学校教育と地域のリンクを／大人を対象とした「生物多様性セミナー」を行い勉強してもらい子どもたちに伝える／いすみ市は、千葉県内でも自然豊かな地域ですが自然保護や大切さなどを学ぶ機会が都市部に比べて少ないと感じられる。環境学習など増やし、何も無いいすみ市の財産である自然を未来に残せる様に努力していただきたい

※いすみ自然・文化ミショナリー：いすみの自然・文化の豊かさや素晴らしさを伝える人

※いすみ子育てジャンボリー：就学前幼児とその保護者を対象に、自然体験活動などを通して相互の交流を図るとともにいすみ市の自然に親しむイベント

5) 生命感じる自立・循環のライフスタイル [普及利用2]

①人々のライフスタイル調査

生命感じる自立・循環のライフスタイルの前提として、子どもの遊びの実態や生活とのかかわり、また大人の日々の暮らしと生物多様性の関係について「人々の暮らしと生物多様性調査（仮称）」を実施し、その日々の生活と生物多様性とのかかわりについての理解と情報共有を目指します。

取組事業	対応課	事業種別
「人々の暮らしと生物多様性調査（仮称）」の実施	農林水産課	新規 中期
日々の生活と生物多様性について小・中学校で学習	学校教育課	新規 中期
事業件数 2 既存 0・新規 2・短期 0・中期 2・重点 0		



オーガニック料理を提供する施設 農を中心とした心地よい循環生活に取り組んでいる

寄せられた意見

金を介さずに幸せになれる地域に／貨幣経済にまみれない／親子の対話でライフスタイルを変える／今ある自然を当たり前のもとは思わないように教え、それを守っていこうという考えにつなげる教育をする／昔の不便な暮らしを求めるのではなく、「豊かさ」の定義を考え直し、「心の豊かさ」を追求する／すべての人が自分の問題としてとらえなおし、同じ目標を共有する／子どもたちが、いすみ市の自然の知識がなく、自然のすばらしさを知らない。その素晴らしさを教えれば、守るようになる／市民の意識調査のやり直しをする。取材による意見集約を行い、本当の市民の声を集める

②子どもたちの自らの遊びや体験のなかでの生命の学びの促進

子どもたちが自らの遊びや体験のなかで、生命を学び生きる力を育む体感・体験の「場・時間・仲間」を持てる社会環境を再生させます。身近な「学校ビオトープ」や学校区の「水田ビオトープ」、「子どもの自然体験フィールド」などの確保、さらに「里山体験学校」、「里海体験学校」、「フィールドミュージアム」等での自然・文化を五感体験できる教育活動を推進します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
保育所と学校・地域の連携による子ども同士のふれあい機会や体験の場の充実	福祉課	既存 短期
体験学習を取り入れた学習の実践	生涯学習課	既存 短期
文化財への愛護意識の高揚・啓発	生涯学習課	既存 短期
学校教育・生涯学習との連携による郷土教育の充実	学校教育課・生涯学習課	既存 短期
水田ビオトープ・学校区の子ども自然体験フィールドの確保	農林水産課・学校教育課	新規 中期 重点
里山体験学校・里海体験学校などの教育活動の推進	学校教育課・生涯学習課	新規 中期
里山里海フィールドミュージアムで生命を学ぶ活動の推進	学校教育課・生涯学習課	新規 中期
事業件数 7 既存 4・新規 3・短期 4・中期 3・重点 1		



山田川での生きもの観察会 自然とのふれあいの中で学ぶ

寄せられた意見

いすみ里山体験学校の開設（千町小、中川小、千町保育所のいずれかを拠点に再生）／いすみ市の地域資源を活用／田んぼの市民農園、レンタル農園、空いている田んぼの有効活用／いすみ環境と文化のさと、海の博物館等を利用した自然体験を／自然観察会、自然体験活動、ネイチャーゲームをする／子どもたちが、いすみの自然の素晴らしさを体験する活動をどんどん取り入れるべき／自然環境を生かした他に類を見ない自然体験教育を／いすみ市の生物多様性がどれだけ素晴らしいか、体験する場を設定することが必要／子どもは都会の子のようにゲームが中心、自然と関わり興味を持たせることが未来につながる／子どもが自然の中で過ごす時間を与え、生物多様性について暮らしの中で伝えていく／無理に押し付けるのではなく、授業以外などの遊びの中で触れさせ自然を好きになれば大人になっても大切にできるようになる／都市公園、児童公園等のビオトープ化／放棄水田等のビオトープ化

③自立・循環のライフスタイルと社会インフラ整備

資源・エネルギーを外部依存するライフスタイルから、身近な里山里海の自然の恵み（生態系サービス）を基本とする自立・循環のライフスタイルを提唱します。その重要性を普及啓発しつつ日々のくらしの安心安全と自給自足を支える社会インフラについて検討し、学校給食や市の施設の食堂等での地産地消を推進し、市民自らが地域の将来を担う体制を整備します。

取組事業	対応課	事業種別
環境にやさしい再生可能エネルギーの普及・啓発	環境保全課	既存 中期
学校給食での有機米・有機農産物の使用	学校教育課・農林水産課	新規 短期 重点
地産地消を踏まえた食育の推進	学校教育課	新規 短期
事業件数 3 既存 1・新規 2・短期 2・中期 1・重点 1		



コンバインに追われる動物を求めて集まってきたシラサギ

寄せられた意見

間伐材や竹材はバイオマス発電に耕作放棄地はソーラーシェアリングでエネルギーを自給する／エネルギーを自給することで高付加価値作物を生産できる／マイクロ水力発電の普及を／高遊休農地の効果的な利用・有効利用について考えることが重要。ソーラーシェアリングの導入も必要／地産地消をもっと進める。環境保全型農業を推進する／地域の資源として生物多様性を生かした、農業、漁業を推進し、食の自給率の高さ、安全を誇るモデル地域になれば良いと思う／給食の残飯が多いのが気になる。農業体験などを通して、食べ物のありがたみを理解させる／「循環」をキーワードとして生活を見直す／家庭で自然の豊かさを実感しながら生きる（自分から始める）／エネルギー資源を大切に、朝型の生活や無駄をなくす工夫を皆でする／共存共栄ということを子どもに教えていく／もったいない意識を醸成する／食育を通して、食べ物から自然環境へと視野を広げ、いすみ市の自然を守る意識を育てる。人間の命と植物や動物のいのちがつながっていることを意識できるように／学校給食、保育所給食に有機無農薬米を使うことは素晴らしい。継続実施してほしい／市民一人一人が、ゴミの分別やポイ捨て、CO₂削減に協力する／ゴミはゴミ箱に、これだけでも全然違うので、子どもたちにも伝え守っていく必要がある／ポイ捨てをしないのが基本。施設を大事に使う。生物を勉強する／子どもの頃川で遊んだ郷愁を持ち続けることが、子どもに残せる自然保護と思っている／ごみの軽量化の具体策としてごみのパッケージ回収をする／生物多様性のエコバックを作り、市民にアピールする／ふるさと納税を利用する

④地縁の復活といすみ市への移住の促進

人々の助け合いと分かち合いの地縁を再興させ、地域の豊かな生物多様性に基づく持続可能な農林漁業に加え、人それぞれの技術や経験を生かした固有の力を携えた「二刀流の暮らし※」を奨励し、豊かな自然・文化の里山里海での暮らしを希望する人々のいすみ市への来訪や移住を促します。また、災害に見舞われた場合に他地域と助け合う「災害協定」を結びます。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
いすみ市への移住促進活動	企画政策課	既存 短期
空き家バンクの運営	企画政策課	既存 短期 重点
NPO や市民団体との連携	企画政策課	新規 短期
事業件数 3 既存 2・新規 1・短期 3・中期 0・重点 1		



いすみ市への移住の案内パンフレット いすみ市の豊かな生物多様性に魅かれて来る人は多い

寄せられた意見

道普請などの伝統を（自治の伝統）大切にする／家の数を増やすのではなく、親子いっしょに住めるようにする／新しい地域のつながりが必要／家が近だけでなく、助け合える地域のつながりにする／既存の地域のグループで親しむのは難しく、新しいつながりのグループができるといい／これまでの地域でのやり方を否定されると反発がある／移住が増加していることからこれまでの地域住民と移住者の距離が縮まるようなシステムを作る／外からの人と昔から住んでいる人が同じ目的をもつことのプラス、マイナス／地域コミュニティの再生／自然と人の融合の象徴が神社であり鎮守の森である。学術的にも学ぶことが多くある／親子の対話、都市住民との交流、教育現場での頑張り／歴史・伝統行事等の地域伝統文化（いすみ文化）／家庭で大家族の子どもたちに祖父母との交流を深めてもらう／家庭で伝統文化の再生維持／現在や過去の形に囚われず、これからの人々の生活に寄り添った戦略が策定されることを願う

※二刀流の暮らし：里山里海での暮らしは、農林漁業のように地域の自然と一体的な職での生活が重要ですが、それだけでは経済的にも大変厳しい現状があります。したがって自然と一体的にかかわる職とともに、それを継続できる別の職や生活の業を兼ね備えた暮らしが求められてきています。

6) 生物多様性を活かした産業創造 [普及利用3]

①生物多様性産業の可能性を探る

いすみ市の印象や魅力等について外部の人を中心とした調査を実施するとともに、いすみの自然や文化、生物多様性について、市民として自慢や誇り、さらにそれを活かした産業創造の可能性等について意見を集約し情報共有します。

取組事業	対応課	事業種別
新規水産加工品の発掘支援	農林水産課・地域市民局	既存 短期 重点
加工品の付加価値を高めた水産物のブランド化の促進強化	農林水産課・地域市民局	既存 短期 重点
環境・エネルギー関連分野の企業の誘致	商工観光課	既存 短期
食を中心の新たな観光の推進	農林水産課・商工観光課	既存 短期 重点
新規農産物づくりの推進	農林水産課・地域市民局	既存 短期
産地直送による全国を視野に入れた消費拡大と販路拡大の検討	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存 短期 重点
農水産物の産地直売施設整備促進	農林水産課・地域市民局	既存 短期
いすみ市の食材を活用した食事メニューの開発	商工観光課	既存 短期 重点
新たな観光資源の発掘といすみブランドの創出・育成・強化	農林水産課・商工観光課	既存 短期 重点
事業件数 9 既存 9・新規 0・短期 9・中期 0・重点 6		



太巻き寿司（左）と伊八めし

寄せられた意見

漁師体験の場を作り就業者を確保する／直売所や販路作りなどを進め、必要に応じて企業化なども考えていくことが必要である／先進事例としての「ファームドゥ」などから学び、農家が集まって企業を立ち上げることを考える／農業の株式会社化／生物多様性で飯が食えるようにする／農業に若人を呼び込む（里山里海のライフスタイルが「カッコイイ」と思えるようなPRが必要）／農業を重視し、自然を活かしたイベントを開催する／地域に根差した産業が生まれること／漁業の養殖→資源を考えると人工的なものも必要／いすみ市で働く場を作る。新規就農支援／農業・漁業のあり方の転換／循環型農業を目指すべき／減農薬、減窒素肥料等、農法を変える／若手の農業人を応援する仕組みを／いすみ市の発展と自然を守ることは相反する。自然産業を発達させ、職業に結び付けないとだめ／住んでいる人の雇用が確保できないと、若い人がどんどん流出してしまう。いすみ市の戦略を考えるには、地域の人の確保が必要／低予算で効率よく進められる計画を。一部の人間の利潤追求にならないように／生産者と地域を分離させない工夫が必要／市民がいすみ市の価値に気づいていない。自覚が必要／景観コンテストを行い、景観がよくなればよい環境になる／生物多様性と関連づけた農水産物とそれを生かした加工商品が食べられる地域づくり／地域の人々が知恵を出し合うこと、自分たちの地域を守るという意識を持つことが必要／いすみ市が、今、進めている自然と共生する里づくり・生物多様性戦略を続けていくことが重要

②里山里海体験エコツアーと教育観光

伝統的農林漁業から生物多様性を有効活用する最新の農林漁業等を通じて、いすみ市の豊かな自然・文化にふれ親しみ、その素晴らしさを体験・体感する「里山里海体験エコツアー」や「フィールドミュージアム」事業、またそこに教育・学習を盛り込んだ「教育観光」等を展開します。

取組事業	対応課	事業種別		
旧千町保育所を活用した「いすみ体験の里づくり」の推進	商工観光課・農林水産課	既存	短期	
圏央道利用による体験型農業の推進	商工観光課・農林水産課	既存	短期	
米や野菜などのオーナー制度の促進強化	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存	短期	
地元特産物を使った料理の提供施設の検討	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存	短期	
遊休農地・転作水田の貸付園「体験農園」の充実	商工観光課・農林水産課	既存	短期	
水産物を利用したものづくり体験の推進	商工観光課・農林水産課	既存	短期	
釣客誘客対策の推進	農林水産課・地域市民局	既存	短期	
都市住民を対象としたツーリズムの推進	商工観光課・農林水産課 企画政策課・地域市民局	既存	短期	重点
地域資源を活用した旅行商品の開発	商工観光課	既存	短期	
自然資源の観光的利用の促進強化	商工観光課	既存	短期	
住民活動などとの連携による自然景観ポイントのネットワークとルートの設定・整備	商工観光課	既存	短期	
グリーンツーリズム※・ブルーツーリズム※についての関係機関との検討及び活動の推進	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存	短期	
農業体験・漁業体験の推進	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存	短期	
スナメリ観光船など新規観光開発事業の促進	商工観光課	既存	短期	
遊休農地・転作水田の体験農園「クラインガルテン※」の検討	商工観光課	既存	中期	
事業件数 15 既存 15・新規 0・短期 14・中期 1・重点 1				

寄せられた意見

里海エコツーリズムの推進／グリーンツーリズム、ブルーツーリズム（いすみ市の豊かな里山、里海を利用した自然体験）／都市部市民との交流／観光産業の活性化／いすみ市の多様な自然を感じることのできるウオーキング・トレッキングコースの設定／モデルコースのパンフレットの作成と周知／環境保全型市民農園（谷津や干潟のコアエリア、放棄水田対策、環境学習エリア、援農、エコ農業の推進、エコツーリズムの場合、コウノトリの生息環境整備の一環）／行政主導の市民農園がいい／オーガニックの農産物をいすみ市の特産品として売るべき／市内にオーガニック農家を増やし、環境学習のワークショップを開催するなど、生物多様性先進市としてアピールすべき／都会にはない自然がたくさんあり、これを守れば観光客を呼ぶことができる／観光資源や産業が、子どもたちが大人になった時にも守られていることが必要／川遊びができる美しい夷隅川を市民全体でアピールする。釣り船、納涼船、SUP（スタンドアップパドルボード）等で遊べるようになれば、観光名所になる／グリーンツーリズムを行い、農家や漁師の生の声を聞いてもらう

※グリーンツーリズム：農山漁村において自然・文化・農林業や人々との交流を楽しむ余暇活動

※ブルーツーリズム：漁村に滞在し漁業の文化や自然にふれ地元の人々と交流を楽しむ余暇活動

※クラインガルテン：賃貸型市民農園で、簡易宿泊施設のある滞在型の市民農園をいう

③生物多様性の「いすみブランド」商品

地域の自然・文化と生物多様性の持続可能な新しい農林漁業展開として、地域に自生する動植物をはじめ伝統的に栽培されてきた地域品種、さらには有害鳥獣をも利活用する農林水産産品の「いすみブランド」化を進め、その商品化を探ります。

取組事業	対応課	事業種別
人もコウノトリもくらせる農村環境整備の推進によるいすみブランドの確立	商工観光課・農林水産課	既存 短期 重点
食味が自慢の「いすみ米」ブランドの創出	商工観光課・農林水産課	既存 短期 重点
千葉ブランド水産物（外房イセエビ、太東・大原産真蛸等）の認証取得への取組支援・強化	商工観光課・農林水産課	既存 短期
特産品販売強化のための有効かつ強力な情報発信	商工観光課	既存 短期
各種イベントなどとの連携を図った産直販売の検討	商工観光課・農林水産課 地域市民局	既存 短期
魅力ある地域資源を活用した協力的な情報発信	商工観光課・企画政策課	既存 短期
化学肥料・農薬使用を低減した環境にやさしい農業による農産物のブランド化の推進	農林水産課・地域市民局	既存 短期 重点
いすみブランドづくりの推進	農林水産課・地域市民局	既存 短期 重点
いすみ市ふるさと物産まつりの充実	農林水産課	既存 短期
事業件数 9 既存 9・新規 0・短期 9・中期 0・重点 4		



いすみ米ラベル試作品



千葉県ブランド水産物として人気の「外房イセエビ（大原・太東産）」

寄せられた意見

自然にやさしい農業、その生産物のブランド化をする。実体がないとだめ／生物多様性と関連づけた農水産物とそれを生かした加工商品が食べられるブランドづくりを進める／こだわりの生産、こだわりの料理等、雰囲気こだわった店、など／ジビエ料理を提供したら

④生物多様性産業の支援・誘致と情報バンク

いすみ市の生物多様性を持続的に利活用し、地産地消を基本として地域経済に貢献する企業を支援し、新たな企業を誘致します。そのため、いすみ市の市民団体や生物多様性にかかわる企業関係者、生物多様性保全の現場の担い手や有識者等による「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」を設置し、生物多様性を軸とした市の活性化の一翼を担う情報バンクとします。

取組事業	対応課	事業種別
企業誘致にあたっての優遇措置の適用	商工観光課	既存 短期
地域活性化が期待される新規企業の誘致活動	商工観光課	既存 短期
地域特性や時代の要請に適合した新産業創出支援のための施策の検討	商工観光課	既存 短期
「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」の設置	商工観光課	新規 中期 重点
事業件数 4 既存 3・新規 1・短期 3・中期 1・重点 1		



環境保全ポスター 大原小学校 6年 齋藤 紫さん



環境保全ポスター 太東小学校 5年 加瀬大耀さん

寄せられた意見

地域の生産者を活かすことができるような販売会社を作る必要がある／町ぐるみで農薬を使わない農業（米、野菜等）をもっと浸透させ、生態系のバランスの中で安全に育った野菜を食べる／生物多様性と関連づけた農水産物とそれを生かした加工商品が食べられる地域づくり

7) 生物多様性を担う組織・拠点の設置 [基盤整備]

①生物多様性いすみステーション（仮称）の設置

いすみ市の生物多様性を担当する部署を明示するとともに、資料・情報及び標本を収集し、その適切な収蔵・管理と分析及びその情報発信、現場での保全・再生や保護・増殖等を担う拠点として「生物多様性いすみステーション（仮称）」を設置し、人材を確保します。

取 組 事 業	対 応 課	事業種別
生物多様性いすみステーション（仮称）の設置と運用	農林水産課	新規 短期 重点
生物多様性いすみステーション（仮称）による NPO や市民との連携活動促進	農林水産課	新規 短期 重点
生物多様性いすみステーション（仮称）による資料・情報等の収集・整理	農林水産課	新規 短期
生物多様性いすみステーション（仮称）による千葉県生物多様性センターやいすみ環境と文化のさと、大学、研究所などとの連携	農林水産課・環境保全課	新規 短期 重点
生物多様性いすみステーション（仮称）による「市内いすみ生物多様性戦略連絡会議」の運営	農林水産課	新規 短期 重点
千葉県生物多様性センターの地域ステーションやサテライトの誘致	農林水産課	新規 短期
事業件数 6 既存 0・新規 6・短期 6・中期 0・重点 4		



千葉県いすみ環境と文化のさと ネイチャーセンター

寄せられた意見

いすみ市として「いすみ市生物多様性地域ステーション」の設置が望まれる／千葉県生物多様性センターや他の自治体等の同様の施設と連携し、いすみ市内及びその周辺地域における生物多様性に関する情報の収集、解析、公開等を行う拠点とする。また、各種モニタリング調査等の独自調査を推進する施設とする／生物多様性地域ステーション、生物多様性資料の博物館、情報ネットワーク／千葉県生物多様性センターとの共同・連絡体制の確立→地域ステーションの設置／いすみ市の自然を考える場をつくる。生物多様性いすみステーションを設置し、いすみ市の自然の把握、データの集積を行う／自然に関する情報ステーションの設置を／継続して活動できる組織でデータを収集・管理していく／モニタリング、生物相調査の体制づくりが必要／自然環境情報の集積（GISに基づくデータベース等）／ローカルステーションの設置を戦略に盛り込む／いすみ環境と文化のさとが中心となって推進する。生物多様性の発信基地として今以上に活用すべき／「いすみ環境と文化のさと」の指定管理を市に移行することが困難であれば、「山田源氏ぼたるの里」の施設を利用して、新たなセンターとしてはどうか。市内の遊休施設を洗い出し活用したら／官、民、産、学が協働による組織をつくり、生物多様性いすみステーションが、日本初の可能性がある「行政指導によるセンター」としての位置づけを／いすみステーションが、各分野での活動を集約、支援、発信の場とする／いすみステーションの情報は公開する。図書施設等、情報管理の一元化／いすみステーションの運営資金を幅広く模索する／いすみステーションの人員の確保（特に専門家）／市民・諸団体・地域・行政が集まって、交流・情報交換をする場を作る／開発をする際は、市などが動植物の保護を考えて助言するようなシステムにする／庭園・植物公園などの施設をつくる／生物多様性担当職員を

②庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議の運営

いすみ市の生物多様性にかかる施策の推進について、市役所で定期的に協議をする「庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議」を設置します。副市長を総括とし、企画政策課、環境保全課、学校教育課、生涯学習課、商工観光課、建設課、農林水産課の各課が参画します。

取組事業	対応課	事業種別
庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議の設置・運営	農林水産課・企画政策課 他5課	新規 短期
いすみ生物多様性戦略にかかる施策の推進	農林水産課・企画政策課 他5課	新規 短期 重点
事業件数 2 既存0・新規2・短期2・中期0・重点1		



環境保全ポスター 東小学校6年 鶴岡舞緒さん



環境保全ポスター 浪花小学校6年 久我虹陽さん

寄せられた意見

今ある課では無理なので、いすみ市の自然保護、生物多様性について責任ある部署を／生物多様性について、長期的な担当部署、システムを／行政と関係機関だけでなく、町や市全体で守っていくべきである／現場の細かな情報が行政に入るようにする。情報が入るようなシステム・仕組みを作る／費用対効果で事業を見ることも求められる／ミヤコタナゴの保護をどこが責任をもつのか明確に／戦略を効果的に推進するためには、市の組織として責任ある部署を設置する必要がある

4 重点施策

市民の皆さんから寄せられた生物多様性にかかわる課題と取組に関するご意見（463件）をもとに、7つの対策の柱を立て、各対策ごとに複数の取組事業（全186件）を策定しました。そしてさらにその中から以下の重点事業（38件）を設けました。

1) 里山里海の自然・文化の保護・保全

コウノトリが生息できる自然環境の整備	農林水産課
国指定天然記念物「ミヤコタナゴ」生息地の保全	生涯学習課
ウミガメを守り育てる活動の推進	農林水産課・地域市民局
夷隅川河口湿地の保全と再生	農林水産課
希少生物保護のための基金設立の検討	農林水産課
事業件数 41 既存 28・新規 13・短期 3・中期 38・重点 5	

2) 里山里海の放棄・荒廃地の再生・管理

小・中学校での「生物多様性教育」	学校教育課
自然と共生する里づくり	商工観光課・農林水産課
環境保全型農業の推進	農林水産課
環境保全型農業と経済の自立促進・支援	農林水産課
環境保全型農業基盤の整備促進	農林水産課
自然と共生する里づくりモデル水田事業	農林水産課
事業件数 48 既存 37・新規 11・短期 29・中期 19・重点 6	

3) 外来生物・野生鳥獣害の防除・管理

千葉県生物多様性センター等との連携・協力	農林水産課
「いすみ市外来生物・野生鳥獣害対策協議会（仮称）」を設置	農林水産課
事業件数 16 既存 5・新規 11・短期 8・中期 8・重点 2	

4) 地域環境や先人の知恵の学び・継承

「いすみ生物多様性先人の知恵物語（仮称）」の作成	生涯学習課
いすみ市の生物多様性に関するカリキュラムの開発と各学年の教育課程への位置づけ	学校教育課
各小学校に水田ビオトープの創出と水田の生きものの観察・調査	学校教育課
生物多様性の保全と持続可能な里山里海の暮らしについての講座開催	農林水産課
いすみ子育てジャンボリー（幼児と保護者）の開催	生涯学習課
事業件数 21 既存 8・新規 13・短期 3・中期 18・重点 5	

5) 生命感じる自立・循環のライフスタイル

水田ビオトープ・学区の子ども自然体験フィールドの確保	農林水産課・学校教育課
学校給食での有機米・有機農産物の使用	学校教育課・農林水産課
空き家バンクの運営	企画政策課
事業件数 15 既存 7・新規 8・短期 9・中期 6・重点 3	

6) 生物多様性を活かした産業創造

新規水産加工品の発掘支援	農林水産課・地域市民局
加工品の付加価値を高めた水産物のブランド化の促進強化	農林水産課・地域市民局
食を中心の新たな観光の推進	農林水産課・商工観光課
産地直送による全国を視野に入れた消費拡大と販路拡大の検討	農林水産課・商工観光課 地域市民局
いすみ市の食材を活用した食事メニューの開発	商工観光課
新たな観光資源の発掘といすみブランドの創出・育成・強化	農林水産課・商工観光課
都市住民を対象としたツーリズムの推進	農林水産課・商工観光課 企画政策課・地域市民局
人もコウノトリもくらせる農村環境整備の推進によるいすみブランドの確立	農林水産課・商工観光課
食味が自慢の「いすみ米」ブランドの創出	農林水産課・商工観光課
化学肥料・農薬使用を低減した環境にやさしい農業による農産物のブランド化の推進	農林水産課・地域市民局
いすみブランドづくりの推進	農林水産課・地域市民局
「生物多様性を活かした産業創造懇談会（仮称）」の設置	商工観光課
事業件数 37 既存 36・新規 1・短期 35・中期 2・重点 12	

7) 生物多様性を担う組織・拠点の設置

生物多様性いすみステーション（仮称）の設置と運用	農林水産課
生物多様性いすみステーション（仮称）による NPO や市民との連携活動促進	農林水産課
生物多様性いすみステーション（仮称）による千葉県生物多様性センターやいすみ環境と文化のさと、大学、研究所などとの連携	農林水産課・環境保全課
生物多様性いすみステーション（仮称）による「庁内いすみ生物多様性戦略連絡会議」の運営	農林水産課
いすみ生物多様性戦略にかかる施策の推進	農林水産課・企画政策課他 5 課
事業件数 8 既存 0・新規 8・短期 8・中期 0・重点 5	



コウノトリが来ると何かいいこと あるのですか？

いすみ市は、「人もコウノトリも住める地域づくり（いすみ市を環境で売り込むための環境経済戦略の構築）」を施策（実行すべき計画）の一つとして掲げています。

どうしていすみ市にコウノトリなのでしょう。コウノトリが来ることでどんなよいことがあるのでしょうか。

◆房総には時々飛来し、かつてはいすみ地域にもいたコウノトリ

コウノトリは現在も兵庫県豊岡市で野生復帰したものや大陸から飛来したものが時々房総にやってきます。また、江戸時代にはいすみ地域でもふつうに暮らし、子育てをしていたと考えられています。（P18 参照）

◆コウノトリは安心・安全のシンボル

コウノトリは毎日たくさんの水辺の小動物を食べます。美しく大型のコウノトリが元気に暮らせるということは、たくさんの生きものが住める生物多様性が豊かな環境であり、私たち人間にとっても安心で安全な環境であると言えます。

コウノトリは昔から縁起のよい鳥（瑞鳥）とされ、西洋の逸話では赤ちゃんを運んでくる鳥として知られます。地域の自然再生をみんなに呼びかけ実行していくための最適なシンボルと言えるでしょう。

◆地域の活性化のために

コウノトリは水田の鳥です。兵庫県の豊岡市ではコウノトリのために、減農薬や無農薬でお米を作っているたくさんの農家があります。そうした水田で作ったお米は「コウノトリ育むお米」として販売されており、安心なお米としてとてもよく売れているそうです。野外を飛ぶコウノトリを見るために観光客も増え、経済効果は年間 20 億円と試算されています。



コウノトリのオブジェ 旧千町保育所の屋根に設置のほか、市役所玄関にも展示（奥村雄司氏作）

◆「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」との連携から

関東地方にもコウノトリやトキを復活させようと、関東地方の4県29市町村が加盟して「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」が設立されました。いすみ市は一番南側で自然が豊かな地域のエリアとして大きな期待を集めています。(P102)

現在、野田市では多摩動物公園から譲り受けた個体を飼育し、繁殖させています。今後放鳥も予定されていますが、関東地方でもコウノトリが生息・繁殖できる環境をさらに整備していく必要があります。

◆郷土の自然を見直し、郷土の誇りを取り戻すために

いすみ市は自然環境に恵まれた地域です。ミヤコタナゴやゲンジボタルが普通に住みアカウミガメやコハクチョウもやってきます。イスミスズカケが発見されたことも多くの人々が驚いたできごとでした。しかし、いすみ市の自然はそこに住んでいる人には当たり前の光景で、その自然のすばらしさに関心のある人はあまり多くありません。

「コウノトリをいすみ市に定着させるためにどうしたらよいか」を皆さんに考えていただくことで、子どもたちや自然にあまり関心のない多くの人にこの素晴らしいふるさとの自然に目を向けてもらう絶好の機会になります。いすみ市の大きな財産とその豊かな自然の可能性に気づき、それがさらに人々の誇りにつながれば、まさにコウノトリがいすみ市に幸せを運んできたことになるでしょう。

**◆コウノトリがやって来ました**

2014年4月、いすみ市に兵庫県豊岡市で生まれたコウノトリが飛来しました。飛来した場所は、生物多様性を高めるために魚道をつくり、江（おっぼり）を堀り、無農薬栽培をしているモデル水田のすぐそばでした。まるでいすみ市の取り組みを励ましてくれているようでした。

生物多様性の保全・再生を進め、いつの日か、豊かな生物多様性のシンボルとしてコウノトリがいつもいすみ市の空を飛び交い、昔のように子育てが見られるようになったらすばらしいことでしょう。

